

# 国連NGO横浜国際人権センター・うずしおブランチ T-over人権教育研究所・人権こども塾 ニュース

当時、一緒に務めていた教員は、「みんなで語り合う人権学習」をどう思っていたか。  
その最終話です。

### 3 今振り返って思うこと

他者に認めてもらいたいと思うのは、誰も同じであると思う。子どもたちだけでなく、大人であっても誰かに承認してもらいたい。だめな部分がいっぱいあるこんな自分でも、受け入れてほしいと。人の弱み、痛み、静かに耳を傾けてくれる、そんな語り合いの場が、いくつになっても必要なのではないかなと思う。

全体学習という場で、一人の子の意見にじっと耳を傾け、思いを巡らすという経験を積んだ子たちは、きっと人の痛みを優しさで温かく包み込む心を育てていったと思う。いろいろな人がいて、いろいろな思いがあつて、それが当たり前なんだ、みんな発展途上にいてもがいているんだ、ということを知っているから、人に優しくなれるのだと思う。

この数年、よく思うことがあります。

それは、大人にこそ、このような学習の機会が必要ではないかと。

いろんな場で大人が孤立化し、息苦しい思いをし、病んでるように感じる場合があります。

日本の自殺者数が、先進国で突出して多いとも聞きました。

胸の内を吐露し、本当の意味でつながり合う機会が、あるようでない、今のこの国。

大人にこそ、「みんなで語り合う人権学習」が必要なのでは、と思ったりします。

そして、これも私と同じ思いをしていたことに驚くのですが、「人に優しくなれる」ということ。このことを、言われてするのではなく、誰に言われるわけでもなく、自然にそうなっていくということ。やはり、人の思いにふれるということが、大切なのだと思わされます。

そんな優しさをもった人たちにいっぱい出会え、つながれた。

そして自分改革にもつながった。

全体学習に取り組んだ日々は本当に貴重で、その後の教職ばかりでなく、私の生活全てを支えたものになっている。

今も心に刻んでいる。

「あの子たちに恥ずかしくないか?」「今、自分は輝けているか?」と。

やっぱりこの先生、私は好きですね。

そう、この学習は、人を好きになっていく学習なのです。

当時、一教員としてはできないような貴重な経験をたくさんさせていただきました。

取り組みの内情を知らず、外目だけで批判され、悔しい思いをしたこともありました。

取り組んでいくなかで、腹立たしい思いや悲しい思いをしたこともありました。

でも逆に、それまででは得られなかったような喜びを感じることもありました。

あの頃の自分なくして、今の自分はあり得ません。

そんな宝物のような時間に、感謝をする日々です。

だからこそ、願わくばそんな思いや取り組みが、どこかで引き継がれればと願うばかりです。

みんなで語り合う人権学習は、——「すべてを変える」